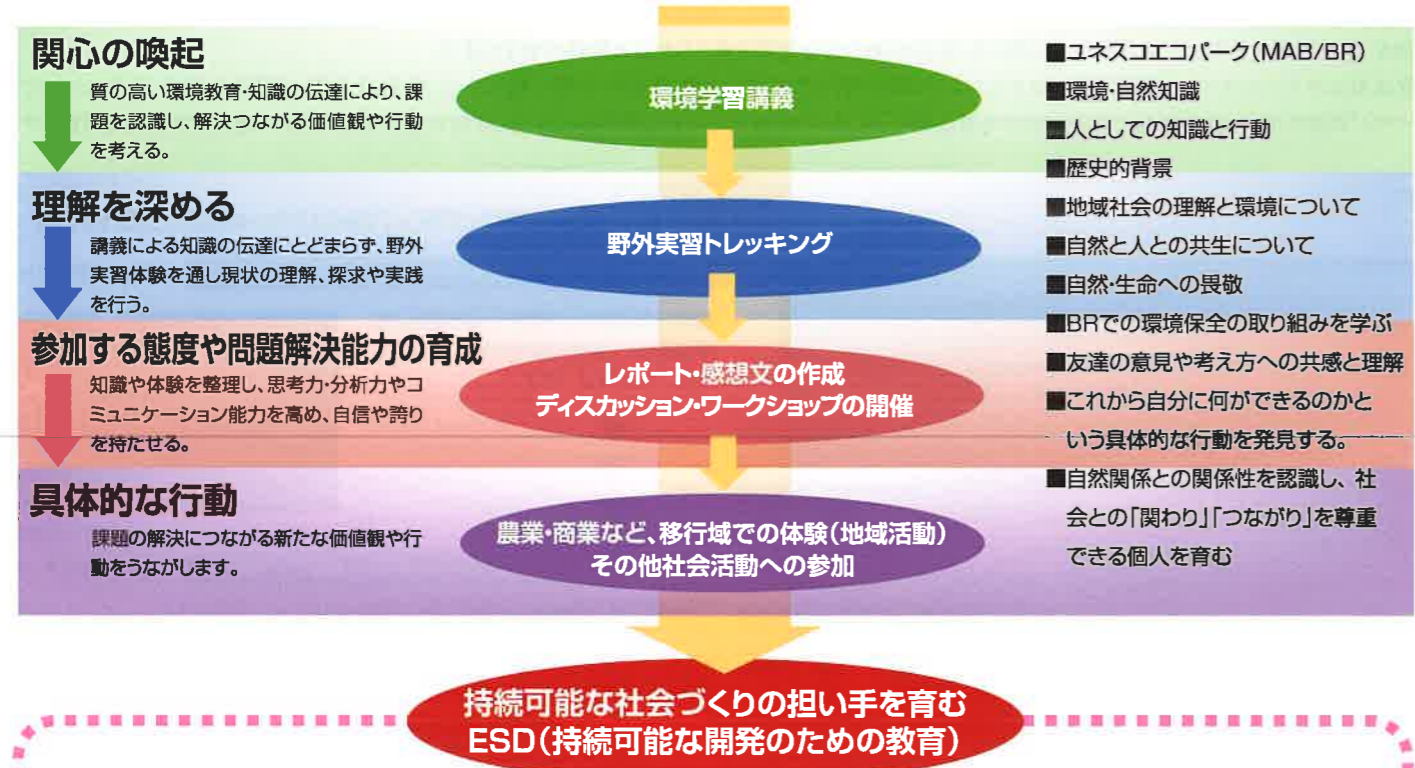


志賀高原ユネスコエコパーク環境学習プログラムのねらい

志賀高原では、環境学習プログラムを通しての体験や知識が、将来生徒の皆様が環境・経済・社会活動において、自分に何ができるのかを学んでいただけたらと考えています。



ESDとは

ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと(think globally, act locally)を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ESDの考え方

ESDの学習や活動で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらをESDという新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結びつけることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

ESDで育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の理解、多面的かつ総合的なものの見方)
- 代替案の思考力(批判力) ○データや情報の分析能力 ○コミュニケーション能力 ○リーダーシップの向上

文部科学省ホームページより



志賀高原 ユネスコエコパーク 環境学習プログラム

志賀高原はユネスコ認定の自然と人間社会の共存を目指す、ユネスコエコパークです。

志賀高原ユネスコエコパーク核心地域まが玉の丘コース





Shiga Highland Biosphere Reserve
Biosphere Reserve since 1980
Man and the Biosphere Programme

ユネスコエコパーク=BR(Biosphere Reserves)とは

ユネスコエコパークをご存知ですか？
生物多様性の保全、持続可能な開発、学術研究支援を目的として、1976年にユネスコが開始。ユネスコの自然科学セクターで実施されるMAB(Man and Biosphere)ユネスコ人間と生物圏計画における一事業として実施しています。

「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」に基づく世界遺産が、手つかずの自然を守ることを原則とする一方、ユネスコエコパーク(BR)は、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的としています。「保全機能」、「経済と社会の発展」、「学術的研究支援」の3つの機能をもつ地域が登録されます。

志賀高原ユネスコエコパークは、年間約200万人を越える人々が訪れる、日本有数の観光レクリエーション地です。1960年代以降にスキー場を中心とした急速な開発が進められてきました。しかし核心地域はほとんど人為の影響が無く、原生的な森林が大面積で保全されており、緩衝地域にも、地域の人々の努力によって幽玄な亜高山性針葉樹林に美しい湖沼や高層湿原が保全されています。

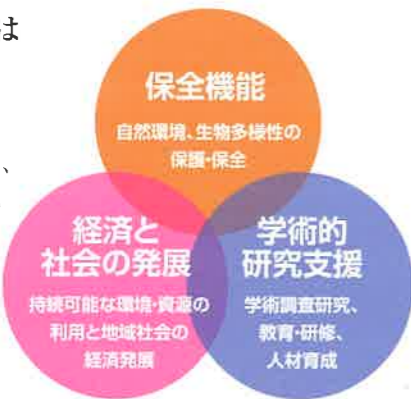
ここ志賀高原ユネスコエコパークは、これら豊かな自然を活用したエコツーリズムと、環境学習を実施しています。

ユネスコエコパークの機能

ユネスコエコパークは「自然と人間社会の共生」を実現するために大きく分けて3つの分野に取組みます。これら3つの分野は独立しているものではなく、互いに連携し強化し合う関係にあります。

ユネスコエコパークは3つの地域から構成されています

ユネスコエコパークは、役割の異なる3つの地域で構成されています。



核心地域(コアゾーン)

国立公園の特別保護地区など、自然環境を守らなければならないいっばん大切な地域。

緩衝地域(バッファゾーン)

環境教育、野外活動、調査研究活動や観光、レジャーが、核心地域を守るため許された地域。

移行地域(トラジッションゾーン)

人が暮らしを営んでいる地域。さまざまな社会活動や企業活動、農業や商業が営まれている地域。



志賀高原ユネスコエコパーク 核心地域 池めぐりコース 大沼池

環境学習プログラム

A 環境学習講義 45分

- 志賀高原ユネスコエコパーク・MABについて
 - 地球環境から身近な環境までの問題を考える
 - 野外実習の予習授業 等
- 宿泊施設で公益社団法人日本山岳ガイド協会公認の志賀高原ガイド組合ガイドによる約1時間の講義で、自然と人との共生についての関心と理解を深めます。



C レポートの作成 60分

環境学習講座・トレッキングを終了後宿泊施設にて、自然と共生を学び、触れ、これからの自分は何ができるのかなどを、環境学習のレポート・感想文として作成します。

D 修了証・ピンバッジの授与

環境学習講座、野外実習、レポート感想文の提出の後、修了者に授与されます。



修了記念ピンバッジ

修了証授与



学校・団体代表向け修了書



生徒向け修了書

地球規模の環境破壊が問題になっている今、環境学習の重要性は、ますます高まっています。

今世界では各国共通の課題として、大気汚染、それに伴う地球温暖化、異常気象、酸性雨、地球環境を脅かす様々な問題を抱えています。環境保全のための国際会議が開催され、いくつかの法律が整備されていくなか、次世代の地球環境を考える時、環境学習の重要性が問われています。子供達が環境・自然を正しく理解することで、地球環境や自然と人・社会の総合的な発展を考えられる人間性が育まれます。

志賀高原ユネスコエコパーク環境学習プログラムは、人間と自然が共生する志賀高原で、自然に触れることだけにとどまらず環境の保全・共生について実例とともに理解を深め、持続可能で将来における価値観や、思考力、分析力を高める質の高い学習(持続可能な開発のための教育(ESD))を目指しています。

B 環境学習野外実習

講義終了後、自然と環境保全・共生についての関心と理解を持ってトレッキングをします。志賀高原ユネスコエコパークでは環境保全にどのような問題があるか、どう対処しているかを、トレッキングを通してガイドから学びます。

トレッキング約240分

緩衝地域(バッファゾーン)を、志賀高原ガイド組合ガイドと共に歩きながら人間と自然の共生を学習。昼食・休憩を取りながらの約4時間のコースです。



緩衝地域(例) しなの木

トレッキング約360分

核心地域(コアゾーン)を目指しガイドと共に歩き、守らなければならない志賀高原の大切な自然に触れる。地形の変化に言んだ約6時間の充実のトレッキングコースです。



核心地域(例) まが玉の丘

選択カテゴリ

E ディスカッション・ワークショップの開催 約60分

環境学習講座・野外実習終了後、生徒の皆さんが自発的に発言をおこなえる環境を提供し、この学習で得た知識・感心したことなどをもとに話し合い、生徒のみなさんが感じたこと、他の友達を感じたことへの共感や新しい考え方の発見など、思考力を高めます。



ディスカッション

F 移行地域での実習 移行地域(トラジッションゾーン)

志賀高原の保全と共生を学び、麓の中山間地域の農業・商業を営む皆さんと直接コミュニケーションをとりながら、移行地域において実際にどのような農業・商業が行われているかを学びます。内容については応相談

■行程[1日のモデルプラン] 学校のスケジュールに合わせて組合せができます。

A 環境学習講義 45分

宿泊施設内 午前 9時00分

講師:志賀高原ガイド組合(公益社団法人日本山岳ガイド協会公認)ガイドによる講義
午前 9時45分 終了



環境学習講義

B 環境学習野外実習

トレッキング 240分 午前 10時00分

志賀高原ガイド組合ガイドと共に、核心地域(コアゾーン)・緩衝地域(バッファゾーン)内のトレッキングコースを歩きながら、人間と自然の共生を学習します。また、レベルに応じた様々なコース選択で自然体験が可能です。
昼食/自然の中でお弁当 午後/3時00分頃 宿泊施設到着



環境学習野外実習スタート



環境学習野外実習



環境学習野外実習



環境学習野外実習



環境学習野外実習



環境学習野外実習

C レポート・感想文の作成

宿泊施設内 午後3時00分

1日の環境学習を終え、自身のレポート・感想文を作成して、講義と野外での実習をまとめ理解を高めます。



レポート作成

D 修了証・ピンバッジの授与

宿泊施設内 午後4時00分

環境学習プログラム修了

志賀高原ユネスコエコパーク 環境学習プログラムのご提案